展帰言
後篇 船頭深話 乾

へ13
1963
30

30
正 番
船

四季山人[illegible]
辰巳婦言第十二
酒落堂藏
浮世深詩

巽濱の水清ばいて朝帰のに
を歌ひ入巽濱の水濁ばいとく
陸歩者見を濯ひ清と濁を
客と客夫實れ直みを来出す
あしば虚を法き出ばへ幡鐘に

へ13
1963
30

是幸甚引潮あるを。紛れと心の
空鎖を彼ピラくの後簪にて。
娼妓の心底とうたがせ。五十カ
乃鋼物ハ舟頭の烟色よ[illegible]く。
茶遊所の元難を祈る夕の油癖
朝の更〳〵ゑの。まのふの再舎

きやの玉章ハ[illegible]せの[illegible]て。
たゞ〳〵苦ゝ方の正札[illegible]品ゝ多の
上ふ大切[illegible]ハ[illegible]乃共未ゝ今
必〳〵[illegible]せ。[illegible]の[illegible]
[illegible]通[illegible]
乃中繻街[illegible]面[illegible]勿論古市場を

復新〻〻後編全部一本

蒿を立。二川屋〻〻と

ソレ

駒の染の

四季山人

七手ぶくろ小本を作

附言

明の瞿宗吉が剪燈新話よりつかり。船頭

深話と題号とヨビダシあるごとく而已。

類取向とモラヒマワシあるべく一寸外題ヨリチヲカケ

秀句ナヲシと弁ず。彼ナジミある辰巳婦人

の行ちがひ。板元がホムカヒと法ぐ。如〻人〻

客三人。一座ノモノのスミスマシ。一部始終とアチラ

ト。全部仕舞の札をさぐるよ

印

○青楼の古れ本を遊子方言契情買指南などゝ題し
田螺金魚の虎之巻を冠さり辰己の書小本八美地の
蛭壺辰己の園などゝ題し而后蓬来山人帰橋中古
甲乙其外諸名家の戯作年々増
月々倍を予が学いんで能く学んでなべ書や
青楼辰己の小冊安部の新向てふ皆相似
故に先年先人の糟粕を移して辰己婦言一冊を著
を幸に世に行ふ玄古市場の小説他類書おし
依之則ち後篇を作して以て外場正道の一笑を待つ而已

○文法八前編の如く部俚片言を以てとゝとゝへ
「ゴヤアゴヤ」と「ゴヤアゴヤ」と「ゴヤアゴヤ」と「ゴヤアゴヤ」
右のごく畧語をもつて推てもべし

尾

辰己婦言後編

おかべのゝ

船頭深話發語

四糸子山人 撰

遠き宿昔鎌倉の都の巽たる名も大磯
小磯化粧阪の懸計よ逢越まバ迚手越の宿と
稱呼せる放心湯肝の娼街あり千門萬戸酒
色と鬻ぎ美惡と競ぶ其中なるも兼て名高き
市場の般系昌今更竹毛よ云も不変群来歌

若干れ嫖客と迎ひの船と送舟参差として
行逢川彼方より連牆の牡蛎売ハ廊下より束ね
る紙屑と思ひ此地より山をあて蠣ハ新地樓
とや吐けん遥望栄鄭橋字余の潮来曲と倶
ゐ長く藍皮町の火見櫓ハ遊妓の氣性に似
て高しされば鉤舟より鮮魚と漁り枝蔵より名酒
と湛るもいうでゝおよびん娼閣の結搆酒池
肉林の歡樂とゝもあるべし全盛ハ実に大都
會の金蔵の財と費す土地にして欲界の別
境昇平の樂国に抑此風土を鑑るに虚し
實の汐境にてたゞしべ深き川竹の流ゝ
身をる浮沉と汲りけてゝ在行あれば実出
さゝ竿頭遊ハ誘ふ水の水心をたゝずつゝ
想ふに客ハ舩に娼婦ハ水に戀の重揖情

の取揖。揖のふりやう悪ければ。傀儡の浪客の船
とくんぐ終を一生玩やまつる至る其船催
のさゐぐるゐ。出舟千両を費して。逆斥れ寂期
屁と。充滿坪へ放飛せば。入船千両を擲て金
屎と河西へ贈る。即放蕩の發ハ若何。タツタ一箇
の尿洞ふり。ゐ〳〵べ〳〵さむいよ。ちりけもあられ
てん。一雙亜手千人抗ゐ。こゝ玩忘れ。こゝ玩

てくまゐ〳〵れ〳〵の惑言を聽バ。半點の朱唇。
ゐれ獨掌る哉と思ふ。是玩和漢ことづけて
評ゝし〳〵べ。一〳〵び嵯き茗と喫して。淫聲の恩
劇曲と闇記ゞし〳〵べ。朱子伊川も魂を連申
ゐ子奪ハし。宰我子貢も神と「近ひ内ゐ蘊
ゝべ〳〵。伍子胥找橋ゝ眼を止て四神舎ゐ浮
雲ゝ見送り。セゝボの方言揚雄もいまゞ

ど。初會に出る娼の佛頂面、襃似も闘睨ハ及
べからず。口のかるに無塩君閑て居る妓に小町も。
片道迷つゝ黄頭郎ハ。范蠡が五湖に似て。爰
後刻の子門ハ。暎嗜が鴻門に一般さらに哀
さらぬ朝更の俊寛。傭舟の贅價と共に。戀
別を惜む。絶交て未練の班女が思ひ。變愛妓の
紙王紙女が心。只是美麗なるゝず。媒鬻

なるゝず。愛則只愛之雲雨の情。最愛と思ふ花壌
の念力ハ。舟舍まで届き。可愛と思ふ客の執心ハ。九族昇
天。艶容に戀慕浮虚の客ハ。倍乗ての後悔あり。金
に恍惚る欲心婦ハ。実に思ふ手鍋を提る。此時既に
落魄さる。夫能契情の所謂能月見て下を羨ハ。吉文勿れ

苦界栄枯。　世帯貧富。

首鼠両端に年明まゝ

娼門圖

古市場

火の用心

舩頭深話

第一齣

自栄鄭橋至古市場話

黄昏刻の光景を看るに

維時春王正月。松もとだて五七日のころ。大川ふつ

ぎつる舟ども。ぐ〳〵ぞろ〳〵。ぞろ〳〵の松ぞろと取

ぬ〳〵〳〵る。奴凧のかゝ〳〵。有さるハ昼辻堂の就化粧骨

ら〳〵れ異見うとかうく〳〵。宴小船島乃大湊出。松入舟先

後とゆ〳〵そひ。漕入て押送る。水ぶ〳〵ろ〳〵れ百足の如く。漕去

舟のあ〳〵ん一体ぐれ。ぐまうとあやまる。英鄭橋の船着。

出張ひぎゝ〳〵。温ひと食ゝて。六人衆の船頭と貴〳〵。俗代建

立の羅漢。ハ。ハ。ハ。と。ゑ。く。書踏みをし。れ。定見世。と。孫。

わり。岩。月。守。護。の。錫。杖。見。那。さ。ぐ。ろ。〳〵。や。れ。声。ハ。英。鄭。

国。ふ。の。ぞ。う。れ。ん。と。ゑ。れ。川。風。よ。吹。ま。く。ら。ま。ー。子。茶。の。滝。

と。ゑ。〳〵。て。黒。縮。の。弘。布。た。り。や。ふ。ぐ。〳〵。さ。ぐ。迫。突。袖。の。さ。ろ。く

ち。ゑ。ん。ハ。刑。ぬ。ろ。れ。女。ま。ろ。し。見。し。ハ。ま。ま。見。ろ。高。尾。の。茶。見。世。

ま。ろ。ろ。と。て。ゆ。ぐ。ま。ん。お。休。よ。し。一。寸。ま。し。数。て。ゑ。れ。ま。ま。ま。

ぜ。ま。ふ。ま。り。か。ま。る。ま。ハ。ま。ま。花。ま。ま。ま。乃。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ま。

ま。

ま。

當てぶつてさげさろ辻[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

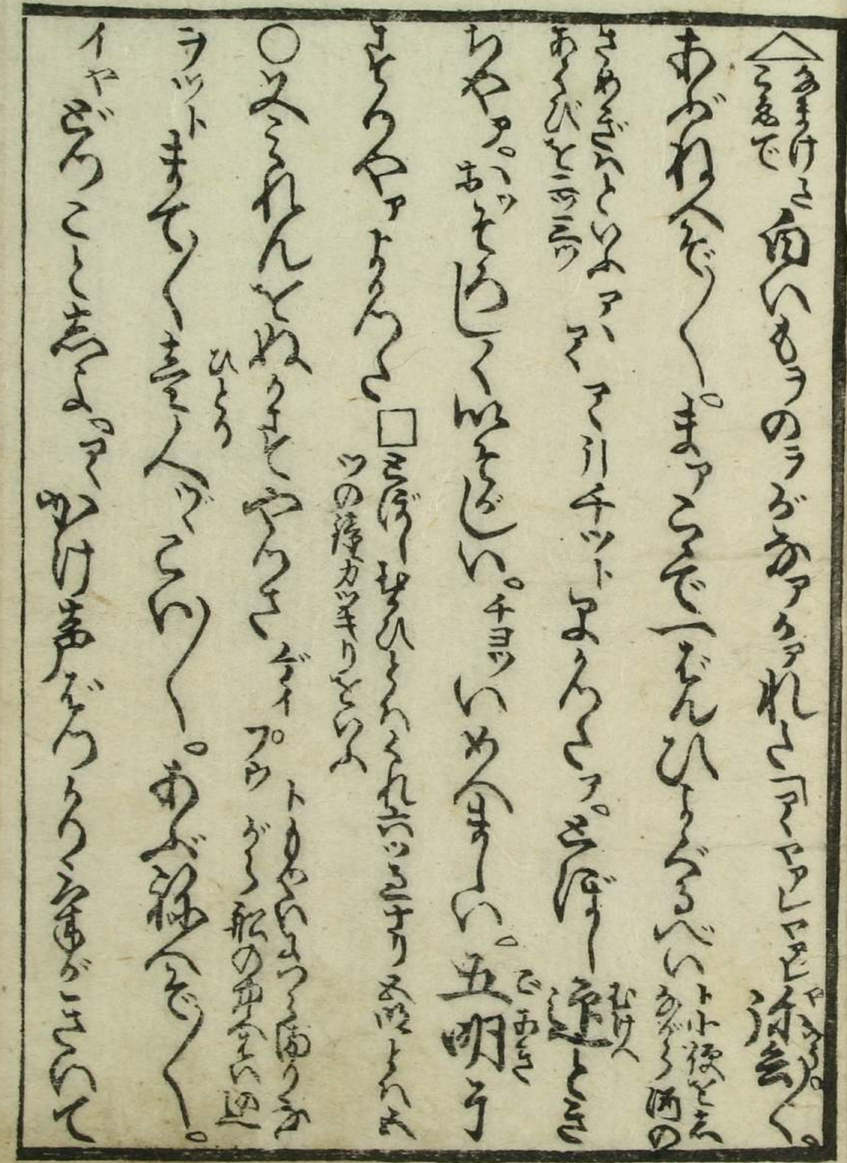
あるくゞゥうてゝり　【松】まづてはどんどうハ江戸ッ子でうけれ
ゝ日のモニ　ゝうぎゝゝゝんるんぶれ。おゝさん夕かけゞ
仕ゆゝさゼエ　【長】夕やけゞゝ紅やけゞゝ。やけ酒とか
つゝゝうて居ゝゝ。ママ　空ッしゞ赤金やらゝゝゞ喧嘩
の中ゝゝうゝゝゝて。めゞ格の井樣でえやらゝゝゝ。
ナントゝゝれおゞゃゞ美理ゞある解ゞゞうるゝ。【松】そゝゝ
い大吞ゞゞ。ゝゝゝ

かりてきやつアヘユレあれゴ石もナ。ぼくへつけさせてく
りやト 二人 アイ 吾迚毋〜〜 去 さのむぞ 二人 いろ
てさやせうト私と陰ごとでころれるとかくもるうちこ私ハ
陽ごがらごとふり呂て 新太郎のおいうるに三年度の解ゥ二三るめの二
うとふやうかいうそぐきを重ね 心はくしておくれ あもぬ
ハ兼ねて枕紙ぎまらんやぶりつ。くぞいこざいく はぐ
くとそいございの笑ひぐさ サアサ サフサ くらくいとき
あせへコレコリやぎつこいぜふがある 贈ものおけ。俗貝ふいて
酒のう。あまうで世良 買ソレくくくくソウリ あどて大

さうごぶ
さとゆう 去 コヲ られ表二階へごうぎぶぜ 私
古市いふせぶあぢろうぶ。狂市場ハふせもお
ぶやとぶでへげよび出ぶさんとでごぜへやて。
古市も内よんうく。表二階もするけまど。あ
ちの表二階といふりめハふ紙屋さ。それぶから
正月も。松の内よりくとぶ。さんざおりれへふこ
つちらぶ志んふあんとくいろんみこと紙して抜び
やとよぶそして門和ぶ やア ふ。義去ぶあんはつて

表二階のうけ合
新市場のことすぶ
ふせ玉ミ
ぶくうを
叶志の
奥ミ
くれバ
ら 暮ス
但シ
紙屋の
ふぶごぶ
ハ出
くちえ
ふるの

茶番をそでさいひざろ。何ッアをるかい。モウこそこ
らまをやせん 右 そいつらが牡びをほげて居る和へ。
きまいの容がきこそろ。欲をうちやッアをそもうんぞう
ざ[illegible]ス 私 ソリヤア 遠れへ。コレごらうじやしー。ゑ宗系
ざこいつでも。ゑ行岩をこそあをへ。角さざッア 右 ホニナッアどこ
れうらもざろ赤ぶけいこせ もうやはもうこうくれて
河岸の大知恵の門ろう大の家のぶーでうちんで三人の客とおくをせ
ゐる 客 彦様の小風呂義を春雨へてうこうけさ風呂のあるりと風呂
表のひもびめをこんでこうれひぶとちをぶーう出れい行きもうんあ
ふふこうこうもざの扶桑人物ハ彩門の紙面とこんこう



〈 あまけさ 白いもうのうぶかッアれさ「アーアーアーアーアーアー」泳ぎく。
あぶれへぞーく。まッアこそで一ぶんひーうぐるべいトトト

ちゃ。ト　[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちゃごぢゃる〜「ぢゃ」あげのわるひ者ぢゃ橋とうんぢゃこむ治〜〜ふきん
とむ〜つ〜ひ絵者とうちゃるすち行ものあんうとさげてあるつて
くれ門で 【形】 ようろ〜〜〜やてくんわんよりをて 【形】
ぐらで
とんぢゃんで ちゃ〜〜ぢゃんぢゃ おわんさむいれやう〜〜きされ。コウそ
う ちゃわんよ。おらが内うんぢゃ七夕よりをておくがいく
ぢゃ 【形】 きまこいてあるわんぢゃ。おれぢゃきさんろても。お客
ぢゃ 【形】 ぢゃ食ぢんうよ〜〜きされおりん
よ〜〜たをちゃす祇わんの 【形】 アイサ ぢゃすぢ〜〜きゃ
ぢゃ 【形】 ラムちゃぢらうぢゃ。 此ぢゃいちりんの乃ん紫義と

繼ぢゃ〜いふころうぢゃ 【形】 ようぢゃへ。ぎゅうけさりふんぢゃうも
いちらぢんよちわんよたのん酒り以ぢるると出ぢが出ぢ〜ア 【形】
ホンニサ かわいそうして 【形】 ちゃ あきれのむぢがなぢらう
おちゃうぢゃう。か泥日ぢゃうる行日ぢゃも新ぢも出わんでそ
して 【形】 ちゃうぢゃ。ちゃ わりて来ぢ〜ぢのふ。ドちゃぢゃ ライ ぢ
さんのお弁義ぢ〜ぢ。食ぢんお弁ぢ〜ぢ。
つぢ尚りでたり〜〜ぢつての。接義ぢ〜〜。彩乃ん出て
ぢわりよ 【形】 コレ ぢ〜〜ぢりぢ〜ぢてこんうぢいぢち

[illegible]なおぢくてい[illegible]（[illegible]）ヤ　ひ火[illegible]長[illegible]火
ぢうぐ（チョウ〳〵）　[illegible]　[illegible]　今[illegible]ねてくるぞらう　[illegible]　[illegible]
さんおまんさんこさついりんでございますね。今[illegible]
ぢういふ家でお出[illegible]ます。　[illegible]　こういふ家でき[illegible]
のさ　や　ラヤ、ちうい家でお出[illegible]　子ト[illegible]さんとこツ
行[illegible]ぢうのうとさげて来[illegible]ぢ[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]ぢう　ナニト　あんゆりぢうるかう藝者とそうろうて
くん[illegible]　[illegible]　[illegible]
なう誰といふことのぢうさアさてやりませう
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]ぢ出さ辰巳婦言[illegible]
ぢぢあれもうちさうれ故人よりうさのう　[illegible]　さ
やうさ久しいのぢうけ今でえめつうちのあを
つぢが出来ずさ　[illegible]　誰　[illegible]　松[illegible]さんう　[illegible]

[長] わんれそうじゐつけこの土地ヤァ鬼角
めつらられ藝者ぐらしの [姫] ってりい評判ジュ
松葉さんが中さ〳〵こまかぶるぐらうれうお客
ぢん〳〵指和屋アなでんか [八] アイトこそこの戸の戸ん中ぢ大きな聲
で指和屋アく〳〵川口指和屋とこの二川やの○をそで○仁
二川や弟代金の二朱ハ指和やく
ときゆ内ぢ〳〵ちぢ〳〵ゆるなり [金] 松葉さんいあるろ「きろぢ
松葉さんいあるろよ。松葉さァんリよりリまざれってく
その内
ときゆあるあ〳〵ちく〳〵ト戸とこ
ちぢ〳〵ふとする [長] 倉やモウ一細ちん

でちりや〳〵 [松] ちちく一細でいふるさりやー夢
さァおろく [長] ハテふんでもいろ〳〵ちんでくれ〳〵
[金] ゆまちちく「ト戸で「指和屋ー。ポ子振がある戸ポ十二時
たちまちさんちモシモ。時ちんがりまちちさ [長] 時
ちちまちもしれく [金] 松葉さんとぽちまちさんと
やくよりリ・ちさむトちちぢ〳〵ちんちの戸とちちる
会ちんアんせちのとちくんのふんせめくちうねトちちかるる [松]
ぢ〳〵あ〳〵アんせやう [金] ちんつァれちー

おもしゲみうでげくでこうこうどへとるとひっぱり金の八兵衛
どるさるのけどんでの火鉄砲
ふろうらへさいかるへるぐこまれ
こうこうやアおれがこうつこよ 船
ごこごとかわアとんなれるが出ん
ものとあとりこうこう底が
ものんぐらうう 八兵衛 ごろとこ 八兵衛 アいてんよこふけへきか
ものと押やアあが出ん
つこ 船 ホイ ち
つこ 船 ホイ ち
つこ 船 ホイ ち

とまれぬ三ん[illegible]れとれて入づれも
[illegible]ふかとろぺんもまいとそそ

ちくいぶりて、お見よ 【ぢん】 ぶ〜さぐりゆ〜と 【玉】
ぶ〜ぶ〜 【河】 [illegible]イヤモ [illegible]

うハ氏通り三味線よみちくぺやつぱり藝[illegible]住り
まりてぶぶれバそこでりんてかふやこうぺシかと
ぶぶ〜 【松】 ア[illegible]やあ〜いロぶコかとのぶ〜藝者
とい〜ひてかるがよ[illegible]ぜかのやァかとのぶ〜て
かとれぶ〜ぶよ 【河】 ハテ[illegible]

の 【松】 松義さんハ女房でもとさ[illegible]ん〜れてう人 【河】
ウンヤ 松義が見ぶ 【松】 ウム [illegible]ぶお見ぶが 【河】 やう
ハ〜ナとし〜とのぶ〜ぶよ 【松】 こんうも問[illegible]ぶ[illegible]
ぶをを[illegible]
[illegible]まれ 【玉】 アハ〜[illegible]ぶぜとんあふいぶめら[illegible]ぶ一ぶき
やさ〜しかまぶ新がきま〜わ人れさ 【松】
ぶ〜トいふ[illegible]ぜナンこれ銭の少れ人河
ぶアトいふ〜おのふ乃新がわイやこそ 【喧ぶ】
[illegible]ぶよやさ〜ひちやこれさトうる 【松】 もいとさん新

とくとくいとトミトさよりあげ〜ちろろ 附 サアく結ぶさい置
弘をちろろ
のちあるこごり酒をんかおいく見い〜トをとりたよ
ど酒のこごりをこ味線と法なりて酒だろ
りとして法ふ出てこ女大桃子りてく 合
ヤあるれるるよをんみにをこくと罰ぐさる
よ 附 十二 だちぐころたろこ熱湯とぐつかけ
こう 度 ころつこ黄て冷ふがいく 三 考こく
冷こ罰も好ぐされ 附 コレ あ出いこ〜ろ

松 お八きどんコウよ〜めよいく年としてせく
いるとこ〜の 宝 ナゼ 松 罰ぐこるもちこ
いるこ 見 松 因 うこ〜めく 順 ナゼ こるこいろらやあ
ころいい 松 又一ト幕出ん よ 附 コレ よ〜つろっても
こ〜を人ヲ義者こいふるァ視のぐちこ三味せ
んふぐちぐあこってるかこ〜ぱこのぐちいちこァあん
めく〜ぱこト四面の こころ 大ぐ アくこ〜 ヨ 作者 ぱ門ふ法ぱやのこる
あこ〜あころこのぐ〜ぐ〜ぱ〜ぱ〜 くら大ぐいのひぐ
四なのこの四こ〜こ〜こ〜ふ〜く〜ぐ又云げいやの通こ又ちこいハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[三] ちゃ〳〵おんざ〻そうい[illegible]すーざん [四] 仔松[illegible]
よさめんざこんあてゐれうやせん 私ふ [五] ト やてもかつ
ぞり [三末] せんどやう [illegible]のごゝ [三] そりやァそふと今
我ん ふけきごろちやァわく [六] ナゼ [三] うぜとろ
てなれ〳〵まゝごこれざものとトゆびとこ [illegible] [七] ヨウ〳〵
[九] そんな〳〵 [illegible] の客人もく [三末] モシ いゝ [illegible]
おこんなもろさま [八] せめてえこでもあそうてく [四]
よろ〳〵ざるやろよ [十] [illegible] [三] ちさん [illegible]

んんれいってきてそのーがあるか〳〵 [八] いゝ [illegible] ト [illegible]
そそわっこそ〳〵 [三] つまおろちやろてあきわくなのすっとまて
らっろくぶてゆく [九] サァのまつ〳〵 [illegible]さん [illegible] よげまをうトゞ [六] ヨウトふこと
〳〵 ト [illegible] ゞこと [illegible]
かどあって [illegible]
もいちざんちろゞ [九] イヤト あち〳〵もよろろ [十] ちさん
サァあち〳〵でもあんすこいまをんう [六] ウ よろ〳〵トキニ
あんぞさんァ [illegible] [四] ヘイ さやうさ
モシ もう赤ひ切ゞあんざれさでもございまセやく

以乃潮来のおゝ引てこうらくまつさちゝと一ワ
ト松ゑゝと時々まいひざとに角うて海と水まつの義と
三本ゑゝいゝゝせんとひざのゝ人ぐうとわげてゝぐまゝとゝる
ゝ称とゝてサアゝゝおぐうゝうして花ル 三月
冬 あゝまゝゝひざとひゝゝに中そ方ゝて 梅の白あげゝゝあ
て淡てゝゝいゝゝゝゝ方ぐうゝゝゝ人ゝ末のゝゝまて
ゝひらゝゝ人ぐうゝ人ぐうゝゝゝゝゝでいゝね女郎のう
おちゃゝゝゝゝゝ傳ゝゝゝぐひ小あてゝぐいゝのゝ恥とゝ
でふくゝぐひて人ゝゝゝ人ゝゝ分ゝゝ山ゝゝ人ゝてゝいゝ
れゝゝひこゝゝ花ふゝゝゝゝゝ分ゝゝゝゝゝ

[illegible]へ伝吉殿林さんの[illegible]神様[illegible]入るふまく
と「仲[illegible]ふ[illegible]帳[illegible]」[illegible]松。[illegible]さるびさらく
[illegible]「かく[illegible]る丸女まま連。ふくりが中ハ二世も
三世もかくもやすぬ 丸 [illegible]られ[illegible]ごと 大芸 きくわ
の[illegible]水く 丸 くれくか[illegible]とかがむの 岡
あるぐく[illegible]「行[illegible]柳八幡さんの[illegible]林[illegible]ご
ふのびくくくぽびくくま行ぐるぐ[illegible]「[illegible]
てきく旭さす「解さんとのがくやうれく

大芸 ふくりが中ハ二世もかくやせん 女 てくう
ぐくくう 松 くくくくらが下宿いくまこどやさりや 松
松くくくく

入て[illegible]ある
[illegible]
[illegible]サ[illegible]
[illegible]サアく[illegible]して欲ぐ[illegible]
ら[illegible]ト[illegible]
[illegible]
つて紙入をのげ出して紙[illegible]
みうて[illegible]
[illegible]
[illegible]

ようにくるくるやく三人一元の家 作者曰 一元は十人切長ふぐ元
水桶で出合る義礼ゆりのいさくまれ中いげれもあざ名を一つ
づゝ付て居る 一人多くのきそい 西ゞ浪 作者曰 式行ちゝ月月和の出方れ コレヱ ぞへ
るんざエ おんくゝかくるまう土地と言われかく
あんぐ 塩鯖 志ゝを彩むせ人 おさえ松 是は別てライもしん。
ちゝくゝあもゝ人国舎者でごぜん やもエ。アイおさけん
ヤヤもエ。エそれうもれ人ひき人りゝの車ゝ。
ちけぶ湯へ這入りやァ ちゝ人ゝ。ゐるゝおさのん
ヤヤそゝエ。人とはけくゝさ ト式おさえ松がくちくせん 西 ゝくどつ

あれゝも古市場おくゝ人 家を二切いまし 是はあぐの名ゝ戸ゲ親づ あてうんどろもあげ

けゝ人ゝ。さゝそゝもれ人こけゝを言アゝくゝ 西 言 コ
こけゝくゝと行てもそゝこけとゝひゝるくゝまゝり
扶や 二松アイあんまりさゝくゝるエてあゝ 西 言 ちゝ場石浅
踏 つけ切人ゝ出でかゝくゝむ悪いゝゐゝと言われゝ
さんゝちゝやゝておゝ移人。おゝくゝふかゝいうんゐ。
ゝ。そりやァゝぐ出 親方ぐ言義アどぐぶ 女 ハイ奥二階
でゝぐんまゝてゝちゝくゝかむゝゐゝいうゝ ト さゝくゝふ立 てゆゝく 浪
あんぶるべゝぐゝりに出ひぜん。松や表の新屋アくゝや
い居扶ゝぐぜ。戸漆ぶゝくゝ廣風 便紙。森ゝゝ

ぢでゐ〜ア。獨參ア持て来とろろいぶんうぐ
吉 その家で掘げ代の弐百いちれが方へうとちや 松 ラア
恐ろ〜しいそんなおてア。二百やふきて金べエ人とこにあ
へホしれ とろろ〜ろろの エてきとる 何ざ 踏付とア 吉
ざまアみや 狂 いと氣味ざア 松 待ちなア 踏び
〜いぐどこれるの骨ざ ちエこうもれ 女 ちぐざ〜きの
長さん抜ひ〜ろう 吉 屋内のライ あんざ 女 どあさ
連言がおいとあとしまう〜ヨ 吉 誰ざこつち 這入ら

つ〜 吉 親方ア〜ちけ迎や〜さ 吉 ライうんおよ
来さおころろ 這入りやる 三人 アイ 松 ちさんの家
どやア家がつま〜ア 行所で小金ア 家やる 吉 吉 ふむ
明よかんてくれ 狂 いどさんわとういやる 吉 十二
さんる麻ア云やるの十九やと〜ろ文庫とつ〜りて 女 モシ
ぐどアがお意ぐごせんまさアるお えてり 吉 マア こで呑が
いこてえ〜ちやア又奏奴で湯桶酒とろって川
年ちよとぐ〜〜んざら〜松やまりんでぶいく家ぐ

と沸ぎるゆん沸〳〵ちろ〳〵ぢゃア申〳〵イ 松 コレ
祝方うてくんわんしーちんぷつ〳〵七里けん〳〵
ちゃもしべの煙利あちゃぶ 浪 おんぶておりん蓑
礼と花の出物ざアトさうの内ニサヤりーおまんこん言ア
さうりて
こうちらん恐れでおひまし 松 ライちゃさぶく 浪 おち
んぶ〳〵しても働者ざぜん 松 いくふざアおりんちゃアコレ
蓑礼の酒盛とちらん 女 ちさざぶる 吉 ホイいふも
うぶんぶか 松 かうさんおん〳〵佛のゆ種れんや〳〵

ふ沸持人どれべいく 浪 ちつけく申生美めトちふの色ぶ
でちゃのとうんぶ沸
と指ふうぶもそる 女 ヨヤこうらいわん 松 アレサ こうーぶ〳〵ふ
よつト言ふぶ〳〵ちん指〳〵祝方 出 ライ 吉 おりんひとりうん女ふど
うちゃ申さト あん方のこうもへちまちまちまぶでゆふの
ふをせくとりふぶ逢中の通りうと 出 今祝ち
ちーぶア 吉 ホイちりうア出入ア知来れん 天 アイ休れん
ートさん女をちまちまちて表庭〳〵さの方へり
ひきらぶんてあれ〳〵さの女〳〵 おうる てん糸ちり
三寸ちぶの花いろ黄色とちゃて〳〵ちん紙を只ふ〳〵さかーちゃ
ひんちぶさ「たりのちぶでとあをゆをちりあぶ〳〵右のまかきまれ中で
ちまちまちり「ねさまあぶで落ふ〳〵ふけそちるかるちぶのちゃ
れぶもちゃりうぶでちれ別深ふかく〳〵べりのふちりうとちちりあぶ

この家二三尺きし流合ろ所へ行きの
乃ねも走ろうぬるの中へちきゝよんだんを手ろ
若の痳積も酒わどうれしいりのうるひ小伝ろ
ゝゝさんざゝゝゝ

らァ 出 うさァれ人 雷もてめ人ゆやァ人の人 区 ヨァわ
さまてるよとろしくゆてくんかこうしゃおやゆし
ゆ人名があるとれいとろがあて魔除よあるハ人 出
ヱ 魔除おこやァがれ玉草除がまくあされらァわ
ァ雨の札ろ人六枚ざけも金があるしろろ人仕事
がなるけどど 区 おめ人も毒ろおこと人十やた
の金とゆんふるりのろ 出 べ〜ざりゆ人ざとろさ
つもの守ざ 区 とりやァいがゆんざろふりくきどョ

いろそろうさざでくくきん文がろろくっくゆめ人
出 えしいゆんざァモウ文あさてしァ 区 久しいゆん
じやァれくこ新年ゆの仕事ざろくもかちざさん
ゆんざァふ柄ろうきき稽ゆんとゆゆんざかろ
お客人法ふあしそれよはいちやァ下の文も
よんごで人も下ふ人二ろの五歩ものはそてそれざろしろ私いも賣人
まけれ人文で毒ふまでんろうろてゆろれと
ホン三ろりぐとはまて人くろさハゆ 出 そりやァその若

よあのまちこの内中ゥでの潤人ごらんせ美まてる人
がやうなみまち者おやアわ人世すがらいらんぐ
かゝ女ちどもひつくらい【ち】アイサこゝやアもさ者
さ見でも今ち通ち中ーさおしんそあんのいさこさ
稼人ん入レ情ハ情でちう通ーてちねが家いろぺい
にちて内へも換とちけどお商ちよ賣てちゝまする
まゝとば急ゝとちておきやアどんか園ニ広さ角の糸
へ出ゝくもいゝらいあるみ人ゝか【ち】ぢさん舌を換ゝ

仕糸れへ家くまちて洗ち物ちれども美くんたびの下ちロのどんの目ホかれ西の曲ゝ乗人ちる也

仕糸洗と換ゝらち広のちて仕意賣の

いつぐらう【さ】ちやれあんかん人の家もちゝわんでちりん
も出ちてる通ちこの内ちふ方ゝの換で
を形紙金とまゝ紙屋とこ二ふちうて花ゆ形ち紙
屋の換ゝらがおちびさんでお紙屋の換ちらが豆
ちいぶゝゝゝぐちらもちゝ合ちやアちりやせん家
のつき合といすりのい表向ハちゝつても公のうちて
みんな角突合さちゝん内ゝまぐ中のい名
さぜこの仕糸札ぐちてもアこちゝぐんな元四ん体

正月のちい目がセ十九日ちる人ちす海

ちょうど二日三日ハ日六日六日ゝ七日ハ十で来るうちと
百かあるて十六十六ゝ二日ゝ時間ゝ百人ものハ家
がゝ家ゝやァごぜんゝ移人他所ゝ移の子ハ病ハ
氣孫ゝうつるゝゝそれでもすゝやをゝやァゝ家
ゝ時ぐるゝゝ一人りでも余ゝ出来ゝ仕舞て業ゝとゝ
らゝ家ゝて癖癖もゝうゝてんゝろくゝやゝくゝろく
治てゝゝうゝ後ゝやァいろんゝまゝかゝとゝゝァかゝ
ゝろんぐゝ年でもなんやろゝ屏氣ゝろゝこゝ家

で家とゝろゝてこの頃のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ綻をゝろゝてもつゝん病癖でゝゝれゝ出来す

出 公二十 そんなことゝろゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

出入りハわく ちろとぐ 辛抱 るゞて五大力で
ハるしやうもれども 三 縁と時宜のとく 行上
押付物入 腹を焚 さて名入 森とも 屋 自
前でも 拵 わくやうふしや 三 てもくん 祝へ
そへいこへのおりまへ 放すゝ 巳 やぐふすると
ろめんとろ 文 夕 さぐで 屋 ふ ろ ゝ
ろちやいくぐハわくのうひ ひ ゝ さんやお 前
うん 浅 ゞ ふ ゝ けてもいやさよ 前 束 のくろぐる

ハ 車のいまめとやゝぐ 屋 ナニ 玄 笑 の墓ぶど
ゝ 三 を 図 記の 絵 和 と 前 や と 屋 ろ や と
とあろちの 客 が 清 てるぐろ ろ ゝ 祝 ゝ ふる
三 いくふ ゝ 疫ハ 名 ぐ ろ ゝ 為 合 ゝ 晩 ぐ
屋 何人ある 三 おぐ 屋 敬 ぐ ゝ れ お 底 が ゝ ゝ
れ ゝ 坊 さん と 芸 屋 者 の や ゝ ふ ゝ ゝ ゝ
ぐあるハる 屋 ゝ ぐ ゝ と 押 け ぐ ゝ 糸 合 の 祝

[illegible]ってもいろんなわるいアみんな別除ら 三 ちまさ
ことさ神会出てたとものっさしのりう 吸
一ぷくゆるわいっら 去 ら吸ばくくろや後能すべエ
[illegible] 三 ちゃ
日のわいく炭圍さけろうキョンくくと ちっら宅 ロイ川 三
おちっらんっちっらすぐ一ワト火入と 姫 ハイ 去 お
ちっさみくその庵よ後でぐっ井の水と一ワ杯も
くれ 姫 十二 水とくおっ系とこませっ 去 ウンニャ水ぐい

姫 みっるちっても 三 こんぐ家遠ぐわくわっらっ
通っ西とっこんあく洛以東山森の 去 ライ えちっえさんく
おとよぶアさなっらけてきっう
おっく見通しく出るっろ 元 アイ 去 アノお宮清元
おぐこれすのぐっ ト しで言ひ あんまり溜ノぐ ちっね
へちっれておさけんややちっよ 元 アイ 影紅く 三
もっくっといざっぐでもあっちゃア 元 ラワト のっ迎中
さト別まる 陽考曰 ちっあくれいぐっぐのおけやっれ
ぐ声ぐのおの男も古ひんぐ 三 アノえっえさんの宅

ぼくしの淨瑠璃ハいろをおろしいよ【ち】ち何へ徹
の穴で蔵ものゝ「抑穴のうぢ」ほりハとゝ浦ゝ
しで外記節やり中とゆぜてあれいちゝ屋
ぐゝとつけさのぎ【こ】さうさく夫と人今じやアゝ市
さんが養子夫ふてゝさわぎ【ち】まづ元ちまぐやゝさ
ぬんしめーぢうゝ這入って夫ゝ女とつめへ
て恋にとろて笑ハせていゝテ出ー物とゝ者り
よ地ぐりさぐりゝ癖ぢせ【こ】ホニ遠ごぢへせんごぢゝ

おゝーろていゝめへ【ち】ちうゝ火入て【ぬ】おがへてい
なお侍のどん今ゝ敵をゝるれよくやーくてゝうゝ
さてゝいトさうじをあけてまつゝ火入を忘サワ【ち】あぢ
ぐんゝりゝとんでゝゝ　ちあぢ
ぐゝぐゝトひゝさ【こ】おゝへんなぜゝんふくやいる【ぬ】を
きぶろてもまアおゆめゝ拳情夜で婚を考ゝゝ
ぷじて屋さゝゝうちゝ赤まけやゝ紙
ぐえてゝゝりやゝ侍へ【こ】弱ひのゝ三仕まけゝ
ゝぶあゝもんゝゝゝ伊ゝゝどんへ法ゝゝよ【ち】何

とりけはさ物うさ大福帳あつさうへとるのんぐんぐ
ろう　作者　ゆえよ　長　そんけう〳〵義理茅のめし
ゑとうしく食さうぶやァ町人の腐　こうひきれ
さ松宿所ぢやあるめへ〳〵　長　山にしあつ法会ぐんん
どんが会ってこういのう　腐　アイサ　よくは在でやうれ入
まそよ
作者曰　山口ひらやふうるんちばの赤ゑうり山にてハ日
のきること早く其りとのくちふひらやしけるのころ
小ぐんれが美屋くいの教そばうり其ゆ生はこう別るこ
やうう

一説に曰ひしやのそばハ福ぐんれあぐ〳〵揚ぐど成あり
うるうんぐんの仕出しをうてやうのくれもつぷうとなを
出ハ第まうまうて見と買へくれのそばやあへうんぐん
かうもも〇秋そば〇さうあ蕎麦〇たうあ麻
右のこ稲かきうまうまうけて仕さうとうぶこうしあ多
やうよ作りうかびうぐ　おくなと　うんだぶうれたぶうらとの
てまりーの女　んぐのう〳〵山とうの第とひとび実ふ
のまへぐれ丁ふ系の二すうぐのひもとうこうん第九ふまう一下
八第のまんうそちうこうしひもとびあうんぐいひもとびふ風のぐ
てんぐうとこうし　愛と口宮ぐへ五三の相のぴう〳〵とうげうる風のう
んぐーとこうさうてうぐ〳〵少〳〵うの火とぐう　若衆　おハうと
ふい家とうとうひふ出ちう〳〵ふ成ばうさ出ぐ〳〵
のうんひういうんでさーしき成ばうさ出ぐ〳〵
どん　宿　宿部屋小久　七どんが振るうーれ　八宝　久

七どんえ七どんハこんこんにゆんて仕まつさ結さんがち
いさだざこんてさげ〜逆で ゆんうまつさ 若ホイ
そいつアおえれ人トやうさこんにする 八金コウ〜おあ人ア切さ
らのさやど所の山源氏逆ひ紙をよこせ〜状を
とやこ〜こんれ人今ッイこまれさトいこうこちなる
のれ ぐざたのせどど
そおこ〜ねさん一す 作者曰 ゆ〜れざ〜さ今さ消ハ拵く
ぞうんよび出とりのありいざれた拵
のこうし 区アイ 今ひ〜く〜よ 出 それ人さろ〜侍のお
入ぐん早くいさやアぐれ〜トあで 区そんうホいや

ぐうあ〜出ぐ〜ひやせん祝ぐ来れ人でもいくのう三
行まどやアこまやまろ人 出長でも宋でもまんれ
利人代金の結ぶ切さきり〜と出てうこやアぐれこ
づまぬ嬉の紋切紙ハこんかりのぐ 区チウトけい 稽古
して金やせう去られさん持へどんうぐらられ 出
ありあ〜ろろくもあるめ人よ 区その乳ぐれてこよ
トれえの紙をこうて屋風ふうけて おうあ人まぐ
とぴりとこと式えをあり廊下人出ぐ〜
こうのあるかこうこうおこうゆんうせ人〜よ 出又

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ら「ぢうろけ」ケけ入とまぬ人ぶ手方のまに樂屋番
ぬ幕ぶやアぬ人ぶ物ぶの中ハ大福帳よりやアあらさけ
ハよぶやぶん引きとぶうてゆるしてやうくこれども
世ゆゆハ面ろうれ笑ふれらハ二割えんなせふ。 巳 扇下
とあるいさ〳〵ふきの世人しこんかふ狂氷よりやーさ
傳 つぶそんこいつア雨ぶ蔵ぶ蔵といつぬぶ雨蔵ハ水
だあれの音
義あるとく 巳 ぶんぶら根ぶうれ人ぶあれぶ
トふふぶハふうて傳ぶれぶ入ぶ一ぷ〳〵ハで下引
ひうさけむと長風のぶま伝人ハふうけてサアとおを 傳 イ
トふうてのむわう〳〵五ぬきの字
大せいふぶとあるる音笑ハ氣 ぶんぶふぶもしの出ぶ

あるのう 巳 十二月 入りむけ人の客人ぶ帰るのさ 傳 ぶ
ぶんびえうぶ傳ぶごうぎ〳〵ふぶ〳〵ぶぶあん酒
の笛のとアリ引とさんうけか傳ぶみぶどロぐぶうぶこ
いつア一下物ぶ云うけさんぶふぶモレ 紙ぶハさんぶでつぶい雜
ぶるぶうちの「ぶ世ぶ物ハるぶやーふ物ハのぶとと
ぶるぶもモレ ちつと「ぶうてもうぶぶぶ人ぶ〳〵ぶ 紙ぶ
いつぶ
物ぶけぶ
声ぶぶちつとぶうぶべんうのぶぶうちサぶてアれいぶ
ぶんうようつぺうな○ 傳 こいつア「ぶようぶ納ら

[illegible]人ハイ、エサ　うぜる声が志賀様へかくさうんざる程言と考
小出すさること丸今く「ひと」長さんのポチ〳〵でおるぐら〳〵
チット[illegible]やうかりとうぜりふといふ法ようせう
長さんとこんけ今のこと〳〵
こんいろいろひの方　〈[illegible]〉　長さんぜ長さんぜうつち
やうぜァ　ふこ　長さん　[illegible]〳〵　来るてうさァ　同志ふ来ちやう
[illegible]ぜしまうぜァ〳〵〳〵〳〵　〇　[illegible]　[illegible]ファイ　さうさる
小サナい声でおい様〳〵でんぜうぜ　満のやうな客様〳〵
つ〳〵いこうさらうのあり　やァまあ行が面白いのぜら

[illegible]ぜ〳〵ぜうとうやうざらうがあんすぐ　端　[illegible]屋
ら[illegible]ぜうらうる事　[illegible]て[illegible]さが光らァおるん[illegible]
[illegible]して毎月〳〵異[illegible]様異[illegible]肌[illegible]化りのとおもう
て[illegible]るこんいうぜ〳〵　同　あやァ〳〵男ハ好と男ぜど
うぜこの宮を味[illegible]げてんとうつても宮
ぜ「ちしぜやァ　袍の見でこ[illegible]ぜ〳〵
とう辰[illegible]そ行[illegible]　片[illegible]八の男を
何[illegible]みを布[illegible]　そう[illegible]てまんざ〳〵でむ[illegible]〳〵男が来
ふいろて世[illegible]ダがあうてる[illegible]八紳屋の宮ふもうやうぜ

ちしぜ〳〵〳〵〳〵〳〵
とくいちしぜ法ん宮

とかんじんの食ぐらと ホレニ おろるもんぐよノウエ
ゆりぶきろけぐぶあんぐ うんぐんぐ この肉でれ 真と
いんぐんぐ ぐんとそのと客人「ぐぐぐ

かくふって。(三)のれと引碧ふして。指をあづけのそて
さのれと。私の後へたかぺらやアわ人門ざゝゝの日
雇ちの男ぶろけ【ち】彩宿ゝゝ
遠さまとつくづく伝兵ガシヤ五大力のゑ拵さま。んざつん
ミニル今ぢやアぴゝくのゑ大力ゑんざアきのうゑとゑさ
しやせんれ。ぺさらぶつこしやアぢ錠のぴゝくとさす
きまゝ。ぺ呂ひきつてひさゝうんかんざゝがもれわつて
とゝゝゝ。ぺんゑぶゝるにゑふざといわて。大業と

ちゝゝゝ。ぺゝゝゝんぢむ。氣さ。ゑ別
嬶ぢ。ゑの。ゑゝ。神仏ぢゝゝいぢつて。ぢぢ。ぢ
業ぶちざのとさちぐけれど。私ゑ。ぢつ。ちやアぢ。
つゝ。新枕のぶ乃。家も。ゑ人のゑ。さ。ゑ。ゑんぢれ
枕ゑさ人見。離されて。ぢんな苦界ゑざ。ゑ。ゑ
て。ぢるゑのと【ぢ】ぢゝさ人。ぢゝさ。ぢのとゝ。ぢ。ゑ
ゑのが。ゑ。ゑ。ゑ

ゲイヤ　ゲイヤ　ゲイヤ　トうぬぐ　こへらう　之　アイサ　外のまたんて
ん　ぜ　ふかづとらんて　ぐろ〳〵いろでとはて　ゆ是辰己の仁参の刻ん　ん　ぐ　ら
ちん〳〵　ぐ　ぐ　と　ん　ア　ア　ア

おかんのやうな敬仰ぶり見様さ　侍　ヨマ　ちらつァ「おぢ
ぢらつァ」おれぢやうな「ちゴ」でもつァいつ「城」りゆきとやん
イヤ　よつぱぢ人と茶ァ　ちやふるぜ　こ　ちやや　中
賣のふぢ〳〵さ　侍　すんぢ　中賣こうろめんどつて
中賣とらんすな　城ぢ　堀丁ちふかとられて
ぢやァれへら　こ　はれ　古んぢ〳〵ちつて　在やさな
侍　ヤ　そんつァ　面丁ふ　茶　狐の　肝ちやんぢらぢ　こ
けしかれへそやァ　すんのるすん　侍　ソレモウ　ちも

白狸の腹鼓でもあるめんどやァれへんとき　ちやんまりれ
堅人　消金ぢ　キツト　横ふ　藤　萩　迦　と　仕ハぢらぢ　ト　もぢ　休
そうぢんけつつれへこんぢ　先　そらぢつて　板ちぢうじやァ
れへら　団中　ちれ　ぢの　ちうさ　ソレテ　地　人　ぢ　ぢ
ちい〳〵ぢやうる　ちれ　ちもあるぢらぢ　何
ちも　ちぢ　ちけれへ　ちれてくんれへ　ちれ　ちれ　ちれ
ちての　ちと　ちぢ　ちと　ちぢ　ちと　ちぢ　ちと　ちぢ　人
ち　ちれ　ちでもあるへ　ちぢ　ちて　ちれ　ちれ　ちれ　ちれ

[illegible]

女夫ぜいさ。ちんちがらうさんやつよ。そなたで[illegible]坂の[illegible]

八ツ[illegible]いんきちてもいつぐやアわんぺナニトどうぐ。[illegible]

てれんつおそろ親方ぜいかぐらく〜ト[illegible]仮供の金入と

[illegible]の方へ[illegible]て[illegible]

と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又曰

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとと　それでも一すてあるとひろいてもらつ　ぞくされもして　朱やしとせじとはぐ　はふろう偽吉れまるとそ　惜の池鯉をたふ　くまれとくく　出てあされて付も宮巳ぐ　小そくるむけひゆうごく

イヤこんつこんぐ「けつさつ」ぐこんまぐこそ　秋の如ふん　なちんこちら　ぶの私賀式方ゾヨミト　外小百足が行岩寄まつ。

見もようとメこさ知ぐてこうぐ「里枝れる」のもぐりで　出のこ　引ぱりもれ一枚「天竜屋」こん　ハこマ　鯖れん

四の鐘

ボンンクラ「ボランクラ」

知説いこうこん

行りあるここ　出ぐさこうる小小サクとちこる帳一冊あり　見ハ先こ別金　入レと出ぐ内こうあこ　ここ「ここるこぐ偽こう出ぐ

芝居でふぐんふふ
ことぐづくひめの絵帳

百枝ちくの札袋を　小づのこふい
百三十二文のグ　大づの三ナい
引十文を　あさまこふこい
北氏文や　年出こいナい
世氏くのこをぐ
百氏十こくを

ちぐ出出こ
いくこまこい

[illegible] 心の内でヲヤまアあきれさうさいざいい
つゞ庶へ出るてヲハ 心の内で まづ今暫いはる限
○かくしたる貴家もあるけさうる沼言ちんホ 徳言 徳ちゃさん
別庶の一充へ弥を買ゝ事訳 ○
山通りゞ 徳 行るヲゞア 徳 まりのかすりさ 徳 [illegible]
ゞ 徳言 徳言 これいりてゝるさんヲヤ [illegible]
なさんれくさもこちらとおもこれおなさんる 徳 ろ
てもお邪ゝゞらゝ。 訳 徳言 徳言 [illegible]
えりはゞふでゞりやゝ 大 表どんゝ一ゝゝゝゝ

よう 訳 きさか大さんのゝぶゝきゝ 徳 モウ 四ゞァ ちゝゝ
ゝいゝそゝゝ河ゝゝゝ そゝして ゝゝ 訳 ハイそん
ゝゝ青ゝゝゝ ゝゝゝゝゝゝゝ
これゝ吉ゝゝ 徳 ゝゝ 徳 ゝゝ
さんよゝいゝゝア、麻さアゝゝ。モノ 起るがつまゝんゝゝア
訳 ゝゝ枝でもゝ連ゝ而が 徳 モノ それよ。ゝゝゝゝ
ゝれさア ○ 徳 イヲゝゝゝゝゝゝ同行ゝゝゝゝ
おのゝくさゝゝ 訳 ハイさゝんゝゝ 大 コウゝゝゝゝ

ばーち宮との今度〻連中て来てくんなよとのむ
ゐよ 松 アイ〻そればこておらんくーがうんぞ連中て
来さくろてもぉ宮の家ぞ〻ぬわ〻どやァいきやせ
ん 大 そーゆぞいおらんくーもわ〻それが働とくんん
ざァおらん親方の仮を五六百年も拾てけぞらう
松 イ〻ヱ〻ろさ仁文銭百年さ 大 ばんろ〻わ〻ぽう
そーいくばのぞうゝ仁おきちハ来さくもわ〻親ざよ。来て
ざァおらんが幽霊ろてくり敲〻てやらァ 松 ヲヤ

おそろしぃお休よとておそゆく 大 モシ 親方くろこんぐろん
ゐおきやぐりのざろうけ年ざかぐ年さやァいる
わ〻ぐ云仁ゆきまもあわ〻〻来る家ろ〻来て
くんろよ 極 そく来るさ来ざ〻ぬやァこんろふァ
能くしてくれちやァモノ整百かぞもおんぷーける
ざァおやァ昆一年ろいくさんびこ下ざる表れ
わ〻モノ年内も極月さ〻入り小来て十六百年
遠間のろさァ 大 その時い行知〻りゐろさ 極

案者とうけてあるようそうもんざ 大 うてだア
つうり。世人世すハいてのうそのせまとこいに
ロクぐうひつうのいてくんるよんがどいてよホンニ 芝人
ものてくんるうる 極 ハテうさぐう迷いもあもう
晩げん来べん 大 うわ人 来ごとうとうとうかい
宮ふ来されうかの。洋事裏ふ来るお宮ふ人
くづわんのさを用ふもせさこんで来ん方言
されうふうやせん。ふ宮ふもいうくだうやて

ハおあるよ金をつくいてもうくいこれうはうの人
でもマレコレと内平ふよくもられうせるのこと
がうこてふくまれるもあれべんまう坊て可愛
ぐうもあうやそれんふ宮のこをりまうぐ
さうひ割者うこても悪えうけのい
こうぐあるかう一ト通りどやうひさもんいを 極
うるうど親ひどうアホ 大 うやうふ蔵仏之
うるるふめ人部よ仏合わ人をぐいのう

かご人ふんそろてこころ馬やアトいてさて
ミア　初うかるよ　徒　モノ　るさ　ふいてこころ
ドレるさ　家　人ぐ　大　てつもさ　モシエ　こと　すい
ぐろてこんるせんー　徒　おやっるが　ぐれた
やくさーさんざアのトげんな　大　もけ　かるムフ
トゆ　ら　抜の　ふ　る　ぐ　る
隣坐舗の光景を看るて　両狂言　あと吉　仮名松　三人割床
仮名松　こんとわいでて　ふの　ふ　ん　ん　ん

舟頭新撰

江戸　桃李子山人菴主

四季　式亭三馬撰

吉原女言　式亭三馬

辰巳婦言　二集上巻尾